

よむよむ

加古川市立志方東小学校

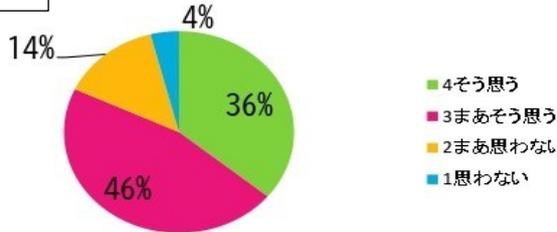
令和8年2月5日 第1号

教頭

学校評価アンケートから

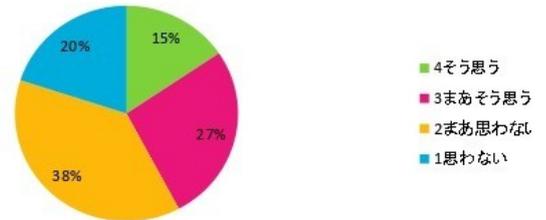
児童

10. たくさん本を読みましたか。



保護者

10. 本を読むことへの関心が高い。



令和7年度の学校評価の「読書」の項目で、「たくさん本を読みましたか?」という質問では、児童はそう思う・まあそう思うは82%に対し、保護者は「本を読むことへの関心が高い」はそう思う・まあそう思うは、42%となり、認識のずれがおきています。現在、家庭に帰っても、子どもたちは忙しく、本を読む習慣は、なかなかつきにくいかもしれません。しかし、学校の授業では、国語科を中心に、「ことば」を大切に、本を読む機会をつくっています。このアンケートを受けて、少しでも皆様と一緒に本に関心をもつことができたらいいなと思います。

「よむよむ」という名前には、本は「世の中を無限によくする知識や情報があふれています。そんな本を夢中になって読めるひがし子になってほしい」という願いが込められています。

「よむよむ」では、学校の活動を中心にお伝えします。記念すべき、第1号は6年生が国語科で「ぼくのブック・ウーマン」を学んだことからです。この物語は、1930年代のアメリカで、学校や図書館が近くにない遠隔地の人々に、馬に乗って本を届けた図書館員たちの、実際にあったお仕事をもとに生まれたお話です。

6年生がひがし子の「ブック・ウーマン」になって、本の価値について考えたことを紹介します。

本の価値とは

私は、「ぼくのブック・ウーマン」や、国語の本を読んで本がある意味や本のありがたさが分かりました。私は、本が苦手で、低学年の時に『なんで本はあるんだろう』とっていました。それに本は高いだけで、本を読んでなんの意味があるんだろうと疑問に思っていました。この「ブック・ウーマン」を読んだからは、できるだけ本を読もうと思ったり、本を読んでもっと学ぼうと思ったりするようになりました。

低学年の時私は、疑問に思っていたけど高学年になって本のありがたみや意味を知ることができて良かったなと思いました。これからは、カルや、ラクみたいに本をなるべく沢山読んで、カルのように広い思いやりのある人になっていきたいなと思いました。

本は、作者によって、種類や、書き方が、違って、面白いなと、最近、本を見ると、思うようになりました。

私は、絵が趣味なので、これからは、絵の勉強をするために、絵の事について、書いてある本を読んで学びたいです。小説や、小さい本を持ち歩いて暇な時に読むなど、どうしたら楽しみながら本を読めるかを工夫して、本を読みたいと思います。

今は、1ページめくると絵が浮き出てくるような、面白い本もあるそうなので、自分にあった本に巡り合いたいと思いました。

次回は、続きを紹介します。お楽しみに！